

池田町の歴史探訪



第6回 池田町の製糸業と高姫社

製糸業で栄えた町

私が池田町に住むようになったのは昭和38年ですが、生まれ育ったところに比べて華やかな雰囲気町だと思いました。

夜になると芸者さんが弾く三味線の音が聞こえ、料理屋や飲み屋も多くありました。

町の本通りには商店が立ち並び、近隣からも買い物客が訪れていました。



高姫社跡地にある碑

3丁目 山本久子

池田町は古くから製糸業が盛んに行われていて、江戸期から明治・大正・昭和初期まで非常に潤っていたようです。

現在、総合福祉センター（やすらぎの郷）のある場所に製紙会社「高姫社」があり、大勢の方々が働いていました。寮に入っている人が多く、フォークダンスや、歌声などと一緒に思い出があります。

盛んだった昭和初期を境に、ほとんどの工場は閉鎖になりましたが、ただ一つ戦後まで残り、昭和末期まで営業を続けたのが組合製糸「高姫社」でした。

従業員は最多時には245名を数えましたが、年々減少して昭和51年には100人に

なりました。昭和28〜33年までは2交代制だったため特に多かったようです。

高姫社は平成7年まで操業され、12年には総合福祉センターに生まれ変わりました。

2つあった井戸の1つは現在センターで利用されています。桜の木は昭和40年に植えたものだそうですが、センター建設時に伐られることなく、毎年たくさんの花を咲かせています。

総合福祉センター内の公園東には「高姫社跡地の碑」が建立されていて、歴史を知ることができます。

池田の製糸業の歴史

〈池田町史〉には「池田町の製糸業が盛んになった訳」が次のように記されています。

- ・東山一帯に養蚕農家をひかえ、製糸の原料である繭の入手が容易であったこと。
- ・地元の地主・酒屋などの資本家が工場を設立したこと。
- ・資本の調達が地元銀行でまかなえたこと。

歴史を後世に残す

規模は全然違いますが群馬県の富岡製糸場が2年前に世界遺産に登録され、観光客が押し寄せています。

池田町で操業していた「高姫社」の歴史を後世に残していくことが大切だと思います。

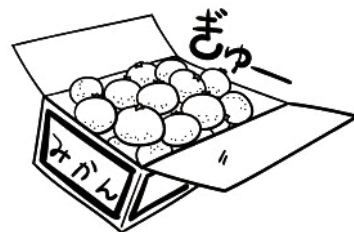
私の子供の頃、養蚕は農家の大切な収入源で家族総出で働いたものです。桑摘みの手伝いはもちろん「お蚕さまがあがるから、学校から早く帰ってきて手伝って！」と当てにされたことなどを思い出しながら「池田町史」をひもときました。

参考文献 池田町史

ファンクラブでは、今年も正月用食品の販売を行います

値段などの詳細は、次号でお知らせしますので、ご協力をいただけたら幸いです。

- 静岡のみかん
- 明石の焼き鯛・ちりめん山椒
- 北海道だし昆布



新潟知事選挙

反原発の米山隆一氏が当選

新潟県知事選で、市民と野党の統一候補・米山隆一氏が「柏崎刈羽原発再稼働を止めてほしい」「農業、暮らし・福祉を良くしてほしい」との県民の熱い思いを受けとめ勝利しました。

原発の危険 根深い不安感が県民に存在

知事選挙は「新潟に新しいリーダーを誕生させる会」



（写真）（左から）松野頼久（民進党衆院議員）、日本共産党の志位和夫委員長、米山隆一知事候補、福島みずほ（社民党副党首）、小沢一郎（生活の党共同代表）、森裕子（選対本部長）、佐々木寛（新しいリーダーを誕生させる会共同代表）の各氏＝7日、新潟駅前（しんぶん赤旗より）

（共産、社民、自由、新社会、緑の5党、市民団体などで構成）の要請を受け告示6日前に急ぎよ米山隆一さんが立候補しました。

米山さんは「福島原発事故の検証なくして再稼働の議論をしない」との泉田裕彦知事の路線を継承すると明言。期待と支持が急速に広がりました。

野党は「自主投票」とした民進党を含め、国会議員らが続々と応援に入り、米山さんを支持する市民とともにたたかいました。

10月7日には、日本共産党の志位委員長はじめ自由、社民、民進各党の代表がそろい踏みした新潟駅前には聴衆であふれました。（写真）最終盤には民進党の連舫

代表も応援に入りました。

福島原発事故を経験し、原発の危険に対する国や東電への根深い不安感が多くの県民にありました。

相手陣営は「県庁に赤旗が立つ」などの卑劣な攻撃をしたり、大量の国会議員を動員しての団体締め付けを行いましたが通用しませんでした。

電力業界に衝撃

東電は現在、廃炉が決まっている福島第1原発を除く全11基の原発が停止しています。うち7基が柏崎刈羽原発で、6、7号機が再稼働に向け原子力規制委員会で審査を受けています。

政府と東電は、東電経営の柱に柏崎刈羽原発の再稼働を位置づけてきましたが、その再検討が迫られます。

今回の勝利は、新潟にとどまらず、日本全国で野党と市民が本気で力をあわせるならば、1+1が3にも4にもなることを示しました。衆院選でもこの流れを太く大きくしていきたいものです。

コラム 有明

あなたはウジ虫の入った缶詰トマトを食べますか？ネズミの毛が入ったマカロニは食べられますか？ハエの卵が入ったジュースを飲みますか？こんな質問をするのは、アメリカ保健福祉省食品・医薬品局が定める食品異物混入基準に関するから▼この食品・医薬品局が定める基準表によると、500gのトマト缶にウジ虫混入2匹までOK、225gのマカロニにネズミの毛4本、トマトジュース100gに10個のハエの卵はOK、サクランボジャムにカビ30g混入OKとある。なんとなんと▼異物混入基準は加工食品113品目について定められ、この基準未満であれば人間が食べても健康を害さないので許容するという。基準設定理由は、「異物を全く含まぬ食品の生産は経済的に困難」として経済効率優先で合法とするもの▼日本ではカップ焼きそばに1匹ゴキブリが入っているも騒ぎになり、食品衛生法も「不潔・異物の混入は健康を損なう」と禁止。アメリカの基準内だから、TPPによって日本が輸入規制はできない規定がある。政府はさてどうするだろうか。

（農民連機関紙より）

部内資料

発行責任者 太田 勲 (62-5727)
議員連絡先 うすい孝彦 (62-5093)
服部 久子 (62-4357)
編集責任者 山本 久子 (61-1066)